

令和 6 年度
「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立西中島小学校

令和 7 年 3 月

(様式 1)

大阪市立西中島小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- ・令和 6 年度の児童数が 41 名の小規模校である。全校児童が互いに知り合った関係であり、他学年の児童に対しても思いやりのある子ども達である。
- ・生活指導に関する部分では、安全な学校生活を過ごす上で長年課題となっていた廊下・階段を正しく右側歩行することについても、一人一人の子どもが意識するようになっている。互いに声をかけあって安全に過ごす態度も養われている。引き続き定期的な強調週間を設けながら安全に過ごせるように進めるとともに、自ら挨拶すること、時間を守って行動する力をはぐくめるようにしたい。
- ・家庭でのゲームやスマートフォン、SNS の活用時間が長くなったり、使用に伴うトラブルも起こったりしている。情報モラル教育や適切な使用ができるよう指導するとともに、家庭と連携した取り組みとして「おうち時間パワーアップ表」を活用し、日々の時間の使い方も改善できるようにしたい。
- ・令和元年度から 3 年度まで、国語科教育の研究実践「生きて働く言語活動～主体的・対話的で深い学び～」を主題に授業づくりを進め、子どもたちが考えをもち、交流することを通して多面的なものの見方ができ、深い学びを醸成することにつながった。また、国語科だけでなく、学習活動全体を通して考えをもち、意見交流する姿が見られるようになっている。
- ・令和 5 年度大阪市学力経年調査の結果をみると、国語科・算数科共に、標準化得点 100 以上となっている。
- ・令和 4 年度からは、算数科教育の研究に取り組んでいる。授業において積極的に取り組む児童が多いが、基礎的な計算処理をする力や自主的に問題に取り組むことに課題が見られている。また、重さや長さなど、生活のなかで実感したり、興味・関心をもって数量の関係に着目したりすることが難しいと考える。そのため、新たに「ぐんぐんタイム」を設けて継続的に基礎的な計算問題に取り組ませ、子ども達一人一人が計算を確実にできる力を養い、普段の算数学習でも積極的に問題に取り組めるような姿を目指す。また、朝学習や、午後の一人一台端末を活用した学習で基礎基本の定着を図るようにする。
- ・読書週間や図書館開放により、読書に親しむ児童が一定の読書時間を確保できているが、10 分以下や全く読書時間のない児童もいる。令和 3 年度まで取り組んだ国語科研究に基づいた多読につながるような授業づくりや、毎週火・木・金曜日に読書タイムを設定する。また、図書館司書とも連携した図書室の環境づくりに取り組み、毎日 10 分以上読書に親しむ子どもをはぐくむ。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和4年度から令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年95%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「1日における読書時間」の項目について、「10分以上」と答える児童の割合を50%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答数が全国平均の7割に満たない児童の割合を、10%以下にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における無回答率を10%以下にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「書くこと」「読むこと」に関する項目の平均正答率を全国平均の5%以内にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、全学年100以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「している」と答える児童の割合を35%以上にする。
- 特に課題である50m走の記録を、令和7年度の全国体力、運動習慣調査において、令和3年度より0.5ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- ぐんぐんタイム（毎日5分間基礎・基本の学習時間）での学習者用端末を活用した学習を週2回以上実施する。（学習者用端末とプリント学習の併用も行う）
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。(R5 75%)
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。(R5 83%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合 38%以上にする。(R5…36.8%)
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 30%以上にする。(R5…25%)

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 85%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を省く] (R5…82%)
- ・第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 85%以上にする。(R5…80%)
- ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。(R5…73%)

3 本年度の自己評価結果の総括

年度目標は最終以下の結果となった。

【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。(R5…75% → R6…92%)
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。(R5…0% → R6…0%)
- ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。(R5…83% → R6…87.5%)

【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。

(4 年生 R5…1.01 →R6…1.18 5 年生 R5…1.01 →R6…1.03)

(6 年生 R5…1.09 →R6…1.11)

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合 38%以上にする。(R5…36.8% →R6…**62.8%**)

- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 85%以上にする。

(R5…83.9% →R6…**79.8%**)

【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 85%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を省く]

(R5…82% →R6…**89.5%**)

- ・第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 89%以上にする。(R5…88.2% →R6…**100%**)

- ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。(R5…73% →R6…**69.9%**)

最重要目標 1 に関しては、目標達成に向けた取り組みを確実に行うことで、年度目標を大きく達成した項目（学校が楽しい）もあった。不登校の改善の割合は変わらないが、各関係機関との連携を進めることができている。

最重要目標 2 に関しては、学力、対話的な学びの項目で大きく目標を達成した。表現する力の育成、対話的な学習を視点とした授業研究の成果と思われる。一方、健やかな体の育成は達成に届かなかったことから、体育の授業を中心として運動好きの子どもをどう育てるのかが課題となった。

最重要目標 3 に関しては、ICT の推進、働き方改革を進められている結果が出た。今後も達成に向けて取り組みを進めていく。読書に関しては経年調査では目標を下回ったものの、校内アンケートでは 90%を超える高い結果となっている。経年調査が 3 年生以上の結果であることを考えると、低学年の読書好きの割合が高く、高学年に課題があると思われる。取り組みにより、読書好きの割合を高めることができているが、どのようにして高学年の読書好きを増やしていくのか、取り組みを再考していく必要がある。

(様式2)

大阪市立西中島小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった						
年度目標	達成状況					
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(R5 75%→R6 92%) ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 (R5 0%→R6 0%) ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 (R5 83%→R6 87.5%)	A					
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況					
取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 ・全校集会や休み時間の遊びなど、異学年の交流に取り組み、学校生活の様々な場面で達成感を味わえる取り組みを行う。(安全教育の推進) 指標 全校集会や休み時間の遊びなど、異学年の交流を月1回以上取り組む。	A					
取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 ・スクリーニングの実施や児童一人一人に寄り添った不登校要因への対応及び学習機会の確保を進める。 指標 月1回、スクリーニング会議を実施し、児童についての情報共有の場を設ける。	A					
取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】 ・人権教育を推進し、自己肯定感を高める取り組みを行う。 指標 1学期はいじめについて、2学期は自尊感情について、3学期は人権について考える取り組みを行う。	(道徳教育の推進) B					
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析						
① 6年生の呼び掛けによる「全校みんな遊び」や、業間・放課後等における異学年での遊びでは、NSTの取り組みなど、様々な場面で一緒に活動することができた。また、体育科・音楽科・家庭科・図工科・道徳科などで隣接学年合同で学習する機会を設けた。また、給食は隣接学年で喫食し、多くのふれあいの機会をもつことができた。当番活動、係活動では、それぞれの児童が、自分の役割を果たしたり、互いに協力したりすることで、達成感を味わうことができた。学校生活アンケートでは、「学校に行くのが楽しい」と答える児童は中間94%・年度末95%と、目標である80%を通年上回ることができた。 ② 毎月スクリーニング会議を実施し、それぞれの学年の様子や配慮を要する児童についての共通理解を図ることができた。関係諸機関とも適切に連携を図ることができた。朝、登校に課題のある児童は、担当者1人で抱え込むのではなく、学校全体で対応す						

るようになり、共通認識の下で指導をすることができた。

- ③ 「いじめについて考える日」には、各学年の実態に応じた教材を用いて指導し、いじめについて考えることができた。人権週間には、ペア学年で「いいところ見つけ」を行い、それぞれの良いところを確認し、互いに自尊感情を高め合うことができた。また、ペア学年での道徳の学習を行い、人権について考えるとともに、他学年の多様な意見に触れる機会をつくることができた。学校生活の中で様々な機会をとらえ、自尊感情を高める取り組みを行ってきたことで、「淀川区人権教育実践交流会」でも本校の実践を紹介し、成果を広めることができた。

上記の取り組みから年度目標3項目において2項目の目標を達成し、「学校が楽しい」については大幅に上回ることができた。

次年度へ向けての改善点

- ① 今後も交流できる場をさらに広げ、多様な意見があることに気付くことで、互いの良さを見付けられるようにする。
② 今後も諸機関と連携しながら、組織で情報を共有し、対応していく。
③ 強調週間だけでなく、普段の生活の中でも、相手への感謝や肯定的な言葉遣いを積極的に指導者が取りあげて良い言葉掛けを意識させたり、良い行動に目を向け称賛したりすることを通して、自尊感情を高めることができるようとする。

(様式2)

大阪市立西中島小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 (4年生 R5…1.01 →R6…1.18 5年生 R5…1.01 →R6…1.03 6年生 R5…1.09 →R6…1.11) ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合38%以上にする。(R5 36.8%→R6 62.8%) ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を85%以上にする。(R5 83.9%→R6 79.8%) 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① ぐんぐんタイムや朝学習を利用して、個々に応じた基礎基本の定着を図る。	A
指標 学校生活アンケートにおいて「ぐんぐんタイムや朝学習において、自分に応じた課題を選び、進んで学習ができますか」の肯定的な回答を80%以上にする。	A
取組内容② 自分の考えを持ち表現する力を育むようにする。	A
指標 学校生活アンケートにおいて、「みんなの前で自分の考えを発表することができていますか。」の肯定的な回答が80%以上となる。	A
取組内容③ 生活習慣を整え、いろいろな活動を通して、体を動かすことの喜びを知り、楽しく運動やスポーツに取り組む児童を育てる。	A
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・週に1回の清潔調べを基に自分の生活習慣を振りかえり、基本的生活習慣の意識の向上をはかる。 ・児童が休み時間に運動場で遊ぶことが可能な日数の中で、学校生活アンケートの「積極的に体を動かすことができた」と肯定的に回答する児童の割合を81%以上にする。 	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

- ①学校生活アンケートにおいて「ぐんぐんタイムや朝学習において、自分に応じた課題を選び、進んで学習ができますか。」の肯定的な回答が90%で目標を上回った。プリントやデジタルドリルなどを活用し、自分で課題を選び、主体的に学習に取り組む習慣がついた。
- ②学校生活アンケートにおいて「みんなの前で自分の考えを発表することができますか。」の肯定的な回答が80%以上となる。児童が休み時間に運動場で遊ぶことが可能な日数の中で、学校生活アンケートの「積極的に体を動かすことができた」と肯定的に回答する児童の割合を81%以上にする。

か。」の肯定的な回答が97%で目標を上回った。発言しやすい雰囲気作りをしたことや、場面や人数によって発表の仕方を工夫することで多くの児童が自信をもって発表することができるようになった。また、友達の意見を聞き、それを取り入れて自分の意見を発表できる児童も増えてきた。

③週に1回の清潔調べの実施により、基本的生活習慣の確立への意識付けはできた。基本的生活習慣の確立が難しい児童への声掛けを教職員で連携をして行うことができた。学校生活アンケートにおいて「積極的に体を動かすことができた」の肯定的な回答が85%となり、目標を上回った。異学年交流も増え、声を掛け合って運動場で遊ぶ姿もよく見られた。

上記の取り組みから学力、対話的な学びの項目で年度目標を大きく上回り達成した。一方健やかな体の育成項目は目標数値には届かなかった。

次年度へ向けての改善点

- ①引き続き、ぐんぐんタイムや朝学習において、進んで学習ができるように学級図書の充実や学習アプリの活用を推進するなど学習環境を整えていく。
- ②今後も自信をもって自分の意見が発表できるような授業の組み立てや意見交流の形態を工夫していく。全校集会のようなより人数の多い場での発表の機会なども考えていく。ペア学年での学習カリキュラムについても検討していく。
- ③清潔調べ、強調週間を引き続き実施し、その結果を生かせるように、教職員の連携と家庭への啓発を行う。積極的に体を動かす機会を更に増やすために、クラスや全校でのみんな遊びやNSTを継続していく。運動好きな児童の育成を目指した体育科の授業改善に取り組む。

(様式2)

大阪市立西中島小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の85%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を省く] (R5 82%→R6 89.5%) 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を89%以上にする。(R5 88.2%→R6 100%) 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。(R5 73%→R6 69.9%) 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6、教育DX（デジタルトランスフォーメンション）の推進】 ICT機器を使用して、説明力を高めるなど表現の幅を広げたり、端末を活用した学習に取り組んだりする。（ICTを活用した教育の推進）	A
指標　ICT機器を活用して、説明や自分の考えを発信したり、他者の情報を受けて、意見交流をしたりする。クラスや委員会活動で、学期に1回ICT機器を活用した発表の機会を設ける。普段の学校生活において、心の天気を入力する習慣を身につけるなど、1日1回学習者用端末を使用する。	A
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・ゆとりの日を設定し、時間外勤務時間を減らす。	A
指標　・ゆとりの日を月に2回以上設定・実施し、教員の一人当たり平均時間外勤務時間の自校と大阪市平均より短縮させる。	
取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】 ・学校司書とも協力し、読書に対する興味関心を高め、読書好きな児童を増やす取り組みを行う。	A
指標　・学期に1回、図書に関する取り組みを行う。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 教育委員会が提示する本校における『学習者用端末及び学習システム利用状況』によると、12月までの月間達成率の平均は、約88.1%と最重要目標における85%以上にする目標を上回ることができた。（但し、自校が代休や始業式前日、終業式の次の日に対する休業日が利用状況0%と平均計算に含まれてしまうため、実際は平均88.1%以上の数値となる。）各学級での教科や委員会発表で、スカイメニュー やグーグルスライドを使ったプレゼンテーションの作成、デジタル教材（ナビマ）など様々なコンテンツを効果的に活用することができた。また、心の天気の入力が習慣化されたり、学年によっては、毎日端末を持ち帰ら

せ、グーグルクラスルームで連絡を取ったりなど、日々の活用ができた。ICT 支援員との連携で児童のみならず、教職員の ICT 技術の向上に繋がり、授業での端末活用に役立った。

- ② ゆとりの日を毎月 2 回設定し、月中行事に明記した。教育委員会が提示する本校における『教員の時間外勤務時間の状況について』では、中間期に引き続き、大阪市内累計平均時間より 12 時間近く短縮している。(4 月～12 月までの大阪市内累計平均 24 時間 28 分、本校累計平均時間 12 時間 45 分)。この数値は、昨年度の自校累計平均時間 16 時間 37 分より 4 時間近く短縮できた。また、最重要目標にある上限に関する基準 1 の達成率(月 30 時間以下)においても、年間を通じて 100%と長時間勤務解消に取り組めた。その背景として、フレックスタイムの活用や会議の数を減らす、仕事を分担するなど、時間外勤務時間を減らす取り組みができたことが考えられる。
- ③ 1 月の学校生活アンケート、『読書は好きですか。』に対して、とても好き・好きと肯定的に回答する児童の割合は、9 月・1 月ともに 90%を示した。昨年度 9 月 72%、1 月 76%より年間を通じて大幅に上がった。その背景としては、学校司書との連携や図書委員会の取り組みが大いに考えられる。学校司書が季節毎の掲示物作成や、新刊図書の紹介コーナーなど図書室の雰囲気が明るく使いやすい環境が整えられていた。また、図書委員会の取り組みとしては、1 学期におすすめの本の紹介と折り紙教室、2 学期は本に関するクイズ、3 学期は各教室での読み聞かせを行うなど図書に関する取り組みを行った。また、図書室開放の呼びかけの放送を担当曜日を決めて行った。様々な取り組みを図書室に来室する回数を増やし、読書好きな児童を増やすことができたことが考えられる。

上記の取り組みから ICT の推進、働き方改革項目で年度目標を達成した。一方読書項目では目標には及ばず、次年度へさらに改善を図りたい。

次年度へ向けての改善点

- ① 次年度も継続して、ICT 機器を活用する機会を多く取り入れる。そのため、スカイメニューや発表ノートなど、どの学年も使えるように、ICT 支援員と連携しながらの研修会を行い、授業で活かせるようにする。また今後も心の天気の入力を習慣化するよう声掛けを引き続き行う。
- ② 次年度もゆとりの日を月中行事を明記し、普段からも時間外勤務時間短縮を念頭に勤務する。次年度以降、教職員の人数が減少する際、時間外勤務時間が長くならないよう、仕事分担が偏らないように教職員間での声掛けや、時間を捻出する工夫をするなど、余裕をもって児童と接することができるよう取り組む。
- ③ 図書館司書との連携を引き続き行い、図書室の有効的活用を考えていく。学校生活アンケート、『読書は好きですか。』に対するあまり好きではない・嫌いと否定的に回答した 10%の児童 4 人に対し、否定的な回答になった理由を把握しながら、少しでも肯定的な回答になるよう働きかける。また、学校生活アンケート、『すすんで読書はできましたか。』に対して、9 月は 92%、1 月は 90%に下がっていることもあり、自発的に読書を取り組める児童も多い中、貸出記録を参考に肯定的に回答することができる児童の割合が高めていくように取り組む。